



「もしかしてブラック上司？」という書籍を4月に上梓(じょうし)した。暴言罵倒する、残業を強いる、こうした人格否定的な「ブラック行動」について書いたものではない。ある意味、

より深刻な「当人に全く自覚がない」ブラック行動がテーマだ。自分の常識からすると当たり前行動で、むしろ良かれと思ってやっているのに、部下にブラックと思われてしまう。そのような言動をしていない

インディゴブルー会長

柴田 励司



1988年上智大文学。マーサージャパン社長、カルチュア・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者(COO)などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年から会長。

か、チェック本としてまとさず電話をすべし。深夜、部下に返信を書いた場合に、緊急時を除き、下書きフォルダに入れておき、翌朝に送信すべし。決めるべき時に決めない。上司が意識して行動する経営者もいるとのことだ。

## 自覚なきブラック上司

理が違上司はブラック資 上司もブラックだ。部下だけでなくかなり変わるのだ。質ありで、部下の仕事のタラするとG.Oなのか、N.O.が、このことに気づいていない。原因は他業界からの人材流入がないからだ。世の中の変化を自分事として受け入れていない経営層、管理職層が多くなる。いきおいは、生産性という観点から、ブラック上司の存在率は、業界別に異なるように思われる。特に管理職層で業界を越えた流動性が低い業界で、存在率が高い。私の出身元と捉えた方がいい。